

IV 早期種苗及び新魚種種苗の養成試験

静岡県沼津市の水産試験場

1. 昭和58年度におけるミナミクロダイ及びコガネシマアジの養成結果

静岡県沼津の養殖業者へ早期に生産されたミナミクロダイと新魚種として種苗生産されたコガネシマアジ種苗を輸送し、養成試験に供試した。その輸送方法や輸送結果は昭和58年度に報告したとおりである。

ミナミクロダイは1984年3月3日に85尾を取り揚げたところ50尾が正常魚で残りは奇形魚であった。50尾の正常魚(平均体重115g、平均尾叉長17cm)は活魚としてkgあたり2,200円で販売取り引きされた。

コガネシマアジについては9月上旬に輸送され9割の輸送歩留りであった。その後水温下降期にもかかわらず順調に飼育が行われたが、12月中旬に寒波の襲来により水温が下降し摂餌不良となって1984年1月5日には全滅した。

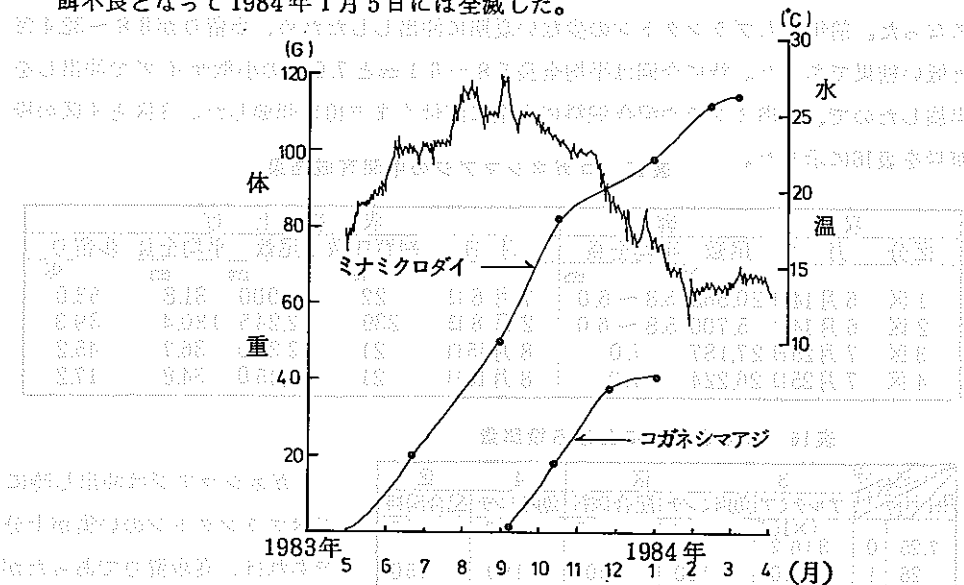


図6 ミナミクロダイとコガネシマアジの成長(静岡県沼津)

コガネシマアジは、輸送尾数が2,700尾と少尾数であったこと、全国的な寒波の襲来により水温が例年を下まわったこと等の悪条件が重なったことで不本意な成績になったものと思われる。

2. ミナミクロダイ、コガネシマアジの輸送試験

1) 材料と方法

両魚種とも輸送容器はダンボール箱を使用し、その梱包方法は前年度と同様である。静岡県沼津にはミナミクロダイとコガネシマアジ、沖縄県大宜味村塩屋にはコガネシマアジを輸送し、到着後の水温、歩留り、到着後の魚の状態、輸送時間等について調べた。

4月3日輸送種苗は2月23日沖出し、生養養成日数が41日間、平均全長33mm、平均体重0.51gである。4月27日輸送種苗は3月21日沖出し、生養養成日数が38日間、平均全長35.9mm、平均体重0.69gである。7月6日輸送種苗は6月14日沖出し、生養養成日数が23日間、平均全長31.8mm、平均尾叉長29.3mm、平均体重0.48gである。8月15日輸送種

表17 ミナミクロダイ、コガネシマアジの輸送

輸送 月日	輸送先	魚種別	収容密度			箱数	輸送	
			収容尾数	収容密度	収容密度		総尾数	個尾
4月3日	静岡県沼津	ミナミクロダイ	2×220	袋/尾 27.5	g/l 14	19	8,360	
4月27日	"	"	2×200	25.0	17	10	4,000	
7月6日	"	コガネシマアジ	2×200	25.0	12	11	4,400	
7月6日	"	"	2×250	31.0	15	13	6,500	
8月15日	沖縄県	"	2×250	31.2	20	10	5,000	
	大宜味村	"	2×300	37.5	24	12	7,200	
	塩屋	"	2×400	50.0	32	4	3,200	

苗は7月25日沖出し、生簀養成日数が22日間平均全長35.7、平均尾叉長33.8mm、平均体重0.64gである。

2) 結果と考察

4月3日第1回目の静岡県沼津までの所要時間は梱包作業開始から約14時間であった。羽田空港到着時(約9時間後)の水温は18℃でおよそ8℃低下、ビニール内海水現場比重は1.020、やや異臭があった。到着後に輸送中による斃死魚82尾を数えたが、生簀収容後9日間は斃死魚(830尾)がみられたため、その尾数も輸送による影響があるものとみずて輸送斃死尾数として換算した。

4月29日第2回輸送の所要時間は約14時間、水温は17.8℃でやや異臭あり、輸送中による斃死は165尾、その後生簀収容後1週間以内に1,135尾の斃死魚を数えた。やや斃死魚が増加したのは輸送1ヶ月程前にピブリオ病に類似した魚病が発生、投薬治療後に完治して輸送したが魚病の後遺症があったものと思われる。

表18 ミナミクロダイ、コガネシマアジの輸送結果

輸送月日	魚種別	生残尾数		歩留り
		尾	尾	
4月3日	ミナミクロダイ	7,448	912	89.0
4月29日	"	2,700	1,300	67.5
7月6日	コガネシマアジ	4,356	44	99.0
"	"	5,850	650	90.0
8月15日	"	4,921	79	98.4
"	"	6,890	310	95.6
"	"	2,492	708	77.8

7月6日第3回目のコガネシマアジの輸送所要時間は14時間到着後の水温は21℃で約7℃低下200匹/袋の斃死率は1%、250尾/袋は10%の斃死率であった。生簀収容後は